

The 40th 第40回東京モーターショー2007

TOKYO MOTOR SHOW 2007 News vol.1



平成19年10月25日

世界に、
未来に、
ニュースです。

Catch the News,
Touch the Future.



“わくわく・どきどきするクルマ”大集合

世界最高の情報発信力を目指した東京モーターショー



“新・総合ショー”に刷新された第40回東京モーターショー2007（主催・日本自動車工業会）が10月26日～11月11日までの17日間、千葉市・幕張メッセで開催。27日からの一般公開に先立つ24、25の両日、報道関係者に公開された。今回は世界的な環境規制の強化を反映した“環境ショー”の色彩が濃い、一方では低迷する国内市場の活性化を盛り上げる“クルマの楽しさを創造”した多彩な参考出品車が多いのも特徴だ。

第40回ショーのテーマは「世界に、未来に、ニュースです。」、その理念は「東京モーターショーには環境や安全、快適性はもとより、生活に多彩な楽しみ方や感動を提供するクルマが世界中から集う。こうした“わくわく・どきどきするクルマ”に出会える場であることをダイレクトに表現し、若者や女性にもひと言で“ショーへ来る楽しさ・意義”を伝えたい」という思いが込められている。これと連動し、「クルマの夢や楽

しさ、素晴らしさの具現化」を訴求した多様な特別企画にも注目したい。来場者が実際にクルマに触れ、一人でも多くの人にクルマファンになってもらえるような、より充実した「お客様参加・体験型」のショーを実現していることだ。多種の体験試乗会をはじめ女性や若者、ファミリーなど幅広い来場者が楽しめるようエンターテインメント性をより高めている。

今回で東京モーターショーも40回の節目を迎えた。これを機に運営形態を変え、従来の乗用車、商用車の分離ショーを統合し乗用車・商用車・二輪車・車体・部品・機械器具等を含めた“新・総合ショー”に刷新され、隔年開催となった。したがって、世界初公開など全てのカテゴリーから多彩なモデル、とくに最先端の環境・安全技術が集う場として「コンパクトな展示で世界最高の情報発信力のあるショー」を目指す大きな意味を持つショーとなっている。

“コンパクトで質の高い展示”に刷新

限られた会場規模の中での商用車を含めた総合ショーの運営が課題だったが、これには幕張メッセの全施設を使用し、屋外展示も合わせて展示面積は前回比で11%増に拡大されたこと。同時にコンパクトな展示で質の高い構成となっている。出品内容でもワールドプレミア（世界初出品）、ジャパンプレミア（日本初出品）など世界トップレベルの台数を誇る多彩なプレミアモデルが披露され、来場者を楽しませる。

今回の参加国・企業数は日本を含む世界11カ国・1地域から4政府（カナダ、ドイツ、スウェーデン、アメリカ）、1団体、241社の出品者が参加している。総出品台数は542台、内訳は乗用車メーカー35社（国内9社・海外26社）。二輪車メーカー9社（国内4社・海外5社）。商用車メーカー5社（国内4社・海外1社）。車体メーカー国内3社。部品メーカー183社4政府1団体（国内164社1団体、海外19社4政府）。

なお、総台数のうちワールドプレミアは77台（乗用車36台、商用車5台、二輪車32台、車体4台）。ジャパンプレミア103台（乗用車75台、商用車2台、二輪車26台）と双方合わせて180台と質が高く、とくに日本メーカーの出品数が際立って多い。これらのクルマが今回ショーの目玉になるのは確実、低迷する国内市場の“起爆剤”としても期待が集まる。

ホール別各社ブースは次のとおり（注・イベントホールは今回タイヤ・オーディオ館として使用）。



東ホール（乗用車）

国内メーカー＝マツダ、光岡自動車。海外＝フォード、ボルボ、ジャガー、ランドローバー、クライスラー、ダイムラー・クライスラー（メルセデス・ベンツ）、スマート、ボルシェ、ヒュンダイ、シトロエン。



西ホール（乗用車・部品）

乗用車・国内メーカー＝トヨタ、ダイハツ、スバル。海外＝アウディ、フォルクスワーゲン、プジョー、ベントレー、ランボルギーニ。部品＝エンジン部品、電装、計器、照明部品、政府・団体。

SPECIAL

ショーに来る楽しさ伝わる数々のイベント

東京モーターショーシンポジウム2007

自動車業界からの情報発信の一環として、クルマをめぐる社会的に関心ある未来・環境エコロジーなど10テーマを取り上げ、トークショーや講演、パネルディスカッションを実施する。会場は国際会議場2階国際会議室、テーマ・日時・主催者は次のとおり。

第5回 みんなで考えよう クルマの税金		
10月27日（土）	14:00-15:30	自動車税制改革フォーラム
第2回「持続可能なモビリティへの一歩」		
10月29日（月）	13:00-17:00	（財）日本自動車研究所
第8回 自動車安全シンポジウム——大型車の安全対策——		
10月30日（火）	14:00-17:30	国土交通省
第2回 アジア環境専門家シンポジウム		
10月31日（水）	14:00-17:00	早稲田大学／（社）日本自動車工業会
カーたびの明日を拓く		
11月2日（金）	13:30-16:30	カーたび機構（自動車旅行推進機構）
走る気もち、ひろがる世界——福祉車両のある豊かな生活——		
11月3日（土・祝）	14:00-15:30	（社）日本自動車工業会
「自動車リサイクル」体験型学習ショー／パネルディスカッション		
11月4日（日）	13:30-16:20	経済産業省／環境省／3R活動推進フォーラム リデュース・リユース・リサイクル推進協議会
張会長ユーザーミーティング みんなで語ろう！クルマの夢、楽しさ、素晴らしさ		
11月8日（木）	14:00-16:00	（社）日本自動車工業会
第2回 日本ITS推進フォーラム 美しい日本、ドライブ旅行、楽しく・賢く・快適に		
11月10日（土）	14:00-16:10	特定非営利活動法人ITS Japan

4×4アドベンチャー同乗試乗会 新規

オフロードコースでプロが運転する4輪駆動車に同乗、このクルマの持つ安定性や走破性を体感し楽しんでもらう。会場は幕張メッセに隣接する海浜公園Gブロック内の特設コース。内外7社・19車種が参加している。

セーフティドライブ体験試乗会 新規

ABS（アンチロックブレーキシステム）やESC（旋回時における姿勢を安定させる装置）の機能などクルマの安全性能が体感できる。参加6社・6車種9台。会場は海浜公園Gブロック内。参加は運転免許取得後1年以上の来場者。

クリーンエネルギー車同乗試乗会

環境規制が強化されるなか、自動車業界が環境問題にとりくんでいる姿勢を来場者に理解してもらうのが目的。ユーザーにとってもガソリン高から関心の高い試乗会となる。燃料電池車のほか水素、電気、ハイブリッド、バイオ燃料など最新技術のエコカーを体感できる。参加8社・13台、海浜公園D・Eブロック。

商用車同乗試乗会

普段乗れない働くクルマに乗れるとあって毎回子供たちに大人気。同乗して商用車の進化が体験できるエリアでもある。参加8社、トラック、トレーラー、バン、バスなど9台。

※試乗券配布場所・幕張メッセ南休憩ゾーン西側。



中央ホール（乗用車・部品・機械器具）

乗用車・国内メーカー＝日産、ホンダ、スズキ、三菱自動車。海外＝ゼネラルモーターズ、サーブ、BMW、アルファロメオ、ルノー、フェラーリ、ロータス、マセラッティ、アルピナ、ロールスロイス。部品＝電装、計器、照明部品、機械器具など。



屋外展示場（車体）

10月24日から30日まで西休憩ゾーンで車体が展示されている。出品社は小平産業、新明和工業、モリタ、極東開発工業、トヨタ車体、タダノ、富士車輛。この展示場は11月1日からライフスタイルパークに開放される。



北ホール（商用車・二輪車・車体・部品）

商用車・国内メーカー＝日野自動車、いすゞ、三菱ふそう、日産ディーゼル。海外＝ボルボトラック。二輪車・国内メーカー＝ホンダ、ヤマハ発動機、スズキ、川崎重工業。海外＝ハーレーダビッドソン、トライアンフ、ドゥカティ、キムコ、アディバ。車体＝日産車体、トヨタ車体、関東自動車工業。部品＝車体、内装部品、用品、走行関係部品、団体、ヘルメット等。



イベントホール（タイヤ・オーディオ館）

若者たちの人気館の一つ。タイヤ・ホイール＝ブリヂストン、住友ゴム、横浜ゴム、日本グッドイヤー、日本ミシュランタイヤ、東洋ゴム、トピー、中央精機、PIAA、宇部興産、リンテックス、レイズ、ビレリジャパン。オーディオ・ナビゲーション＝松下電器、ソニックデザイン、富士通デン、クラリオン、ゼンリン、三洋電機、ザナヴィ・インフォマティクス、パイオニア、アルパイン、ボーズ・オートモーティブ、ケンウッド。

充実した「参加・体験型」特別企画

■少年少女モーターサイクルスポーツスクール

小学生を対象にバイク体験を通じて子供たちの能力を発見し伸ばすとともに、親子の絆を深めるスクール。NMCA日本二輪車協会が社会貢献の一環として中央休憩ゾーンで行う。開催日は10月27、28日と11月3、4、10、11日の6日間。

■第5回 全日本 学生フォーミュラ大会 参加車両・デモ走行 新規

学生が自ら構想・設計・製作した車両により“ものづくりの総合力”を競う全日本 学生フォーミュラ大会。その第5回大会（9月）に参加した学校が実車を持ち込んでデモ走行する。会場は中央休憩ゾーン、開催日は10月29日～11月2日、参加7校。

■親子で楽しむクリーンエネルギー車教室（事前登録制）

クリーンエネルギー車について理解を深める教室。対象は千葉市を中心とした小学生並びに朝日新聞と朝日小学生新聞が一般募集した小学生とし、実験キットを使用しながらわかりやすく学べると好評。開催期間10月29日、31日、11月1日。国際会議場3階301号室。

■こどもカーモデラー体験教室（事前登録制）

新規企画として子供たちがカーモデリングの世界を体験できるという教室。毎日新聞の協力で開催されるが、実際にクレイ（粘土）を使用することで、ものづくりについて楽しみながら学べるというもの。開催日10月27、28日、11月3、4日。国際会議場3階301号室。

■ミニシアター～クルマの夢・楽しさ・素晴らしさ～ 新規

世界に誇る日本車の高い技術力と、その源泉となる“ものづくり”への熱い思いを込めた2本の映像を上映する。「クルマの夢」編＝ナビゲーターの米村でんじろう氏が日本車の最先端の環境・安全技術をわかりやすく紹介する。「クルマの楽しさ・素晴らしさ」編、第5回全日本 学生フォーミュラ大会に挑戦した学生たちの姿を追ったドキュメンタリー。上映期間10月27日～11月11日。国際会議場3階302号室。



オフロードコースを走る4×4アドベンチャー同乗試乗会

■スロットカー・サーキット 新規

ヨーロッパを中心に大人気の1/32スケールモデルのスロットカーコースがキッズパーク（北ホール2階）に設けられている。手元のコントローラーでマシンのスピードをコントロールし、迫力のレースが体験できる。参加対象は小学生以下で、毎日熱いレースが展開されることだろう。期間10月24日～11月11日。

■ライフスタイルパーク（西休憩ゾーン）

人とクルマのかかわりあいを中心に、さまざまなイベントでクルマに親しんでもらうエリア、ファミリー層から大人気。11月1日から11日まで開催される。

〈交通安全イベント〉千葉県警察本部＝シートベルトコンビンサー、運転適性診断車の体験、パトカー・白バイの展示のほか、こども警察官の制服貸し出し、こども免許証の発行などで楽しめる。

〈トライアルデモンストレーション〉日本自動車工業会＝プロのライダーによるオフロード走行などで二輪車のイメージアップを促進する。出演予定者は小林直樹、本田元治の両選手。

〈ダブルダッチ〉日本自動車工業会＝ダンスと縄跳びのコラボレーションパフォーマンスと交通安全クイズを開催。

〈レッカー車デモンストレーション〉日本自動車連盟＝事故・故障などで、交通の妨げになっている自走できない車両をJAFのレッカー車で吊り上げ、けん引し、移動するデモンストレーション。

〈bayFM交通安全特番〉株式会社バイエフエム＝ライフスタイルパークから中継レポートなど実施。

■幼児くるま絵画展

地元との交流とショー参加意識を深めてもらうため、千葉市幼稚園協会の協賛で継続している。今回は子供たちが考えたクルマを自由に表現してもらえるようテーマを「夢をカタチに～ほしいな、ぼくの、わたしの夢のくるま～」とし、応募による全作品56幼稚園、3,530点が北ホール2階、キッズパークで展示されている。

■タカラトミー・コラボレーション企画 新規
「夢をカタチにbyトミカ」

幼児くるま絵画展は今回で10回目となる。これを記念して寄せられた作品の中から、子供らしくユニークな発想の3作品を株式会社タカラトミーの協力で「トミカ」で再現し子供たちの夢を実現する。再現されたトミカは会期中北ホール2階「トミカ・チョロQコーナー」に展示される。授賞式は10月27日午後2時。

このほかの主な関連企画

◇「グランツーリスモ 5 プロログ」：次世代カーライフ体感アリーナ（2階・中央モール 東ホール前）。◇献血、骨髄バンクコーナー（北ホール南側 特別会議室）。

来場者サービス

◇JAMA情報発信&インフォメーションブース（2階・中央モール 中央ホール前）。◇オフィシャルグッズ、出品者プレミアムグッズの販売を会場内3カ所に設置（北ゲート、西ゲート、やすらぎのモール）。◇自動車ガイドブック、ハンディバック、エコバックなどが場内7カ所で販売されている。

EVENT

第40回東京モーターショー2007開幕直前イベント@表参道ヒルズ&東京ミッドタウン
モーターショーの歴史的映像やコンセプトカーのプレビューに注目集まる

表参道ヒルズ会場には女優の黒谷友香さんも登場



東京モーターショーの熱気が一足早く街中へ——日本自動車工業会とトヨタ自動車は、第40回東京モーターショーの開幕に先立ち、ユーザーへの「事前告知」として「第40回東京モーターショー2007開幕直前イベント」を行った。

10月10日から14日まで、若者に人気の商業施設、表参道ヒルズに展示スペースを設け、東京モーターショーに出品予定のトヨタのコンセプトモデル「i-REAL」「FT-HS」などの展示、また自工会コー

ナーにおけるCO₂削減キャンペーンのデモが行われた。

続いて10月18日から21日までは、六本木の複合商業施設、東京ミッドタウンにブースが開設され、同様の展示が行われた。「TOKYO MOTOR SHOW 2007」と書かれたカラフルなデカールが縦横に貼られたブース内の自工会コーナーでは、液晶モニターに映し出される過去のモーターショーの映像に見入る人の姿が絶えなかった。



東京ミッドタウンにはコンセプトカー「Hi-CT」もお目見え



高速・高画質・高品質 毎分65枚フルカラー出力

印刷から加工までインラインで高速処理。多様なニーズに応えるハイパフォーマンス。
※A4ヨコ

ON DEMAND PUBLISHER C65

The essentials of imaging

このニュースは、コニカミノルタ
ON DEMAND PUBLISHER
C65で出力しています。

コニカミノルタ ビジネスソリューションズ株式会社
プロダクションプリント事業部
TEL 03-5205-7820
URL <http://konicaminolta.jp/pr/odp>

The 40th

TOKYO MOTOR SHOW 2007

10月24日のプレス入場者数 8,900人 プレス入場者数累計 8,900人

東京モーターショーニュースVol.1 2007年10月25日発行

発行所 社団法人 日本自動車工業会 広報室
〒105-0012 東京都港区芝大門1丁目1番30号 日本自動車会館
TEL.03-5405-6119 FAX.03-5405-6136
WEB SITE www.tokyo-motorshow.com

JAMA